

職員による年度末評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

評価指標 評価を A:4点(a人) B:3点(b人) C:2点(c人) D:1点(d人) と点数化し、最高100点満点となるように換算して表示しました。

計算式 $25 * (4 * a + 3 * b + 2 * c + 1 * d) / n$ (総数) 総数(回収数)=64

評価項目	評価の観点	今年度の取り組みの成果	次年度への課題	職員による評価				年度末 評価指標		
				A	B	C	D			
キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	高3 昨年度にならって補習計画(朝、放課後、土曜立志館、夏期休業)を立て、実施した。またキャリア主任や予備校講師から必要な講話を受けた。	高3 学力に応じた補習体制が組めるとさらにいい。	30	29	5	0	84.8		
		高2 屋代ミニ大学などを通し、大学学部学科研究を深めることができた。								
		高1 秋の学習合宿の実施をはじめ新たな企画の取り組みを実施した。学習合宿を通して、学習習慣の再構築を図った。	高1 学年単独ではなく次年度を含めた体系化を考えたい。							
		係 キャリア室に職員が常駐していることが進路指導のノウハウを継承するのに重要なポイントになっている。	中1 職場体験学習のあり方検討 中1 内進生の進路検討							
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	高3 学年PTA、進路説明会、学年通信(LANDMARK)を通じて必要な情報を伝えた。	高3 私大の情報についても発信してほしい。	38	23	3	0		88.7	
		高2 学年PTAや学年通信を通して、進路情報を共有した。	高2 多方面の進路情報を提供していく。							
		高1 学年通信を通じて定期的に進路選択や学習に関わる情報の提供ができた。	高1 より内容を充実させたい。							
		中1 学年通信臨時号の発行や学年PTAにおいて啓発を行った。								
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	係 定期的学年通信の発行で生徒・保護者に進路情報を逐次発信できた。	係 学年通信をホームページに掲載して欲しいと要望がある。	23	32	8	1			80.1
		高3 例年同様、学年として極力5教科7科目で最後まで頑張らせるよう指導した。	高3 国公立二次試験、特に後期試験まで頑張れる生徒の育成。							
		高2 考査・模試結果を分析し、学年全体として学力を養成した。	高2 進路実現に向けて学力を養成していきたい。							
		高1 考査・模試の結果を分析し、高校生としての学習習慣の定着を指導した。	高1 各成績層に応じた取り組みを行いたい。							
生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	中1 6年後を見据えた基礎力の育成を部分的に実践できた。		25	33	6	0	82.4			
	係 夏休み以降は理社の学習と記述力の養成に力を入れ、国公立大学受験に向けて総合的学力アップと進路実現をめざした。	係 私立型の生徒の増加傾向対策								
	高3 生徒面談や保護者懇談を通じコミュニケーションをとりながら、模試分析・進路報告会・出願検討会等を通して情報を共有し、有効活用した。	高3 学力と自分の希望進路に差がある生徒の指導								
	高2 面談週間に加えミニ面談を実施、個々の生徒の状況を把握し指導した。また1月に生徒個別学力検討会を実施し、生徒の現状把握と今後の指導方針を共有した。									
魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	高1 学習指導係のアンケートや「家庭学習の記録」等を元に生徒の実態を学年で把握・分析し、学年通信や面談指導で活用した。	高1 生徒の学習実態を継続的に把握し、学年で共有することで各教科の指導に活かしたい。	30	31	2	0		86.1		
	中1 学力分析、立志館、放課後補習などの形を整えた。									
	委員会 授業公開週間の設定及び授業改善アンケートの実施などを通して、各教科の教科指導の研鑽に資することができた。	委員会 委員会として各教科に同様の働きかけをしていく。 中1 他校視察などを計画的かつ戦略的に行い研究したい。 中1 学力実態についての分析をもっと行い、改善指導。 教科 日々、研究室で授業内容や教科指導法について意見交換を行ってきた。 教科 中学生への教科指導の工夫と実践。授業改善アンケートを全員が実施したい。								
	生徒の学習実態調査(家庭学習時間など)の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に生かすことができたか。	委員会 同じような他のアンケートとの重複の調整。附属中学の調査等の検討が課題。 高1 次年度も継続したい。								
通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	係 街頭指導・クラスでの呼びかけなどを通じて、後期は自転車事故・盗難の報告は減り、通年では昨年並みとなった。	係 鍵かけなど自転車管理は、年度当初に徹底することが必要である。 高2 一步間違えると大事故になりかねない事故があったので、注意喚起をしたい 高1 再三、自転車に関する注意を繰り返していきたい。 中1 電車やバス内でのマナーについて更に改善させていきたい。	24	36	3	0			83.3	
	高1 軽微な自転車による交通事故が多かった。									
	係 地域に目を向けた企画や、商店街と連携した鳩祭りができた。	係 地域と連携した活動の一層の推進								
	係 班室監査(使用状況が適正か)を復活できた。	係 校内や班室棟など、清掃の充実 高1 応援練習を本来の質実剛健の気風に沿ったものに出来ないか。 中1 中学生徒会組織を決定していきたい。								
生徒会 質実剛健の気風を大切に、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	係 清掃委員会に働きかけ班室棟の清掃、秋季の外掃の徹底・美化等、実施できた。	係 学力と学習環境美化は関係があることを認識させ、自主的な取り組みを促す。 係 予算の関係で、清掃用具の充実は厳しい状況にある。次年度は事務室と相談しながら優先順位を考え早期に善処する。 高2 ロッカーの上に私物を置かない習慣が身に付いてきている 中1 中学生徒会の活動で花壇の整備を実施した。	14	37	13	0	75.4			
	係 清掃委員会は鳩祭りのゴミ拾い、ワックスがけ活動、日々のゴミステーション当番等、確実に任務を遂行した。									
	委員会 附属中学生を含んだフォーラムや連携講座など新たな取り組みができた。	委員会 IV期を見据えた中長期的視点で事業を展開する必要がある。 中1 中学生が関わるSSHプログラムの開発								
	高1 学習習慣確立週間などに、学習の記録をとり続けた。									
新しい学校づくりに向け、教育課程やSSHのプログラムについて研究を行うことができたか。	係 2回の授業公開、中学生対象の体験授業、小学生に対する学校説明会2回、中学生に対する説明会に多くの参加者があった。小中学生、地域の方々に本校の特色を理解していただけたのではないかと思います。 係 附属中学、高校ともHPのレイアウトを新しく見やすくなった。各部署からの情報を集め、高校・中学の特色や活動を発信できている。 中1 中学の特色(特に高校部分)を明確に伝えなくてはならない。	係 来年度に向けては実施の時期、時間帯、内容について、反省を活かして改善していきたい。 係 生徒アンケート・保護者アンケートの内容をどのようにフィードバックさせるか更に検討が必要である。	37	23	4	0		87.9		
	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。									
	係 街頭指導・クラスでの呼びかけなどを通じて、後期は自転車事故・盗難の報告は減り、通年では昨年並みとなった。									
	係 班室監査(使用状況が適正か)を復活できた。									